



平成26年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月13日

上場会社名 株式会社インタートレード 上場取引所 東
 コード番号 3747 URL http://www.itrade.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 尾崎 孝博
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 丸山 與一 (TEL) 03-3537-7450
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月14日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年9月期第1四半期の連結業績(平成25年10月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年9月期第1四半期	614	△8.3	△27	—	△27	—	△29	—
25年9月期第1四半期	670	△13.2	16	—	19	—	12	841.2

(注) 包括利益 26年9月期第1四半期 △7百万円(—%) 25年9月期第1四半期 22百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年9月期第1四半期	△4.06	—
25年9月期第1四半期	1.75	—

(注) 当社は、平成25年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年9月期第1四半期	3,064	2,246	73.3
25年9月期	3,131	2,253	72.0

(参考) 自己資本 26年9月期第1四半期 2,246百万円 25年9月期 2,253百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年9月期	—	—	—	—	—
26年9月期(予想)	—	0.00	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年9月期の連結業績予想(平成25年10月1日～平成26年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,270	△6.3	△45	—	△50	—	△50	—	△6.96
通期	3,000	10.1	205	—	200	—	180	—	25.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

26年9月期1Q	7,444,800株	25年9月期	7,444,800株
----------	------------	--------	------------

② 期末自己株式数

26年9月期1Q	259,200株	25年9月期	259,200株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

26年9月期1Q	7,185,600株	25年9月期1Q	7,184,700株
----------	------------	----------	------------

当社は、平成25年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。期中平均株式数は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信 (添付資料) 5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、証券ディーリングシステム、外国為替証拠金取引システム、取引所外取引システム等の開発及び保守を中心とする「金融ソリューション事業」を主力事業とし、あわせてグループ経営管理ソリューションシステムの開発及び保守を中心とする「ITソリューション事業」、健康関連商品及び製品の生産・販売を行う「ヘルスケア事業」及び「自己資金運用事業」を行っています。

当第1四半期連結累計期間（以下、当第1四半期）においては、日経平均株価は引き続き上昇基調であり、当第1四半期末においては日経平均株価は16,000円を超えました。東京証券取引所における売買代金も前年同期の1.8倍超となるなど、当社の主要顧客である証券業界の事業環境は良好な状態を保ちました。

当第1四半期の当社連結経営成績は以下の表のとおりです。

	平成25年9月期 (前第1四半期)		平成26年9月期 (当第1四半期)		対前年同期比 (%)
	金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)	
売上高	670	100.0	614	100.0	91.7
営業利益又は 営業損失(△)	16	2.4	△27	—	—
四半期純利益又は 四半期純損失(△)	12	1.9	△29	—	—

金融ソリューション事業、ITソリューション事業が売上高を減少させる一方、ヘルスケア事業が売上高を伸ばしました。自己資金運用事業は売上高が計上されておりません。

連結売上高は前年同期比で約8.3%減少の614百万円となり、それに伴い売上原価も22百万円減少いたしました。一方で、ヘルスケア事業を中心に広告宣伝活動や研究開発活動等の先行投資は積極的に行い、販売費及び一般管理費は前年同期から10百万円の増加となりました。

以上の要因から、当第1四半期は27百万円の連結営業損失となりました。

セグメント別の概況は次のとおりです。

なお、各事業の売上高には、セグメント間の内部取引を含んでおります。

(金融ソリューション事業)

金融ソリューション事業の業績は当社金融ソリューション事業本部の業績であり、証券ディーリングシステム、外国為替証拠金取引システム、取引所外取引システム等の開発及び保守を行っています。

当第1四半期の経営成績は以下のとおりです。

売上高 516百万円 (前年同期比90.2%)
 セグメント利益 128百万円 (前年同期比103.5%)

なお、金融ソリューション事業の売上内訳は、以下の表のとおりです。

・製品区分別

	平成25年9月期 (前第1四半期)		平成26年9月期 (当第1四半期)		対前年同期比 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
証券ディーリングシステム	414	72.5	330	64.0	79.7
取引所端末	53	9.3	59	11.6	112.3
外国為替証拠金システム	47	8.4	70	13.6	146.3
取引所関連システム	41	7.2	45	8.7	109.6
その他	15	2.6	10	2.1	71.9
合 計	572	100.0	516	100.0	90.2

・売上区分別

	平成25年9月期 (前第1四半期)		平成26年9月期 (当第1四半期)		対前年同期比 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
パッケージ売上	26	4.6	13	2.7	51.9
システムインテグレーション売上	33	5.8	48	9.3	145.1
ライセンスビジネス売上	193	33.7	233	45.2	120.9
カスタマーサポート売上	319	55.9	221	42.8	69.1
合 計	572	100.0	516	100.0	90.2

- ・証券ディーリングシステムの売上高が大きく減少しました。平成25年9月期中に主要顧客の解約があったことが主な要因です。また、運用の効率化や価格競争への対応を目的とした主力製品『TIGER TradingSystem』のASP化が進んでおりますが、これも売上高の減少の要因となっております。なお、ASP化はコスト削減にも寄与しています。
- ・取引所端末、外国為替証拠金システム及び取引所関連システムは、大きく売上高を伸ばすことは出来ていないものの安定稼働を続けています。
- ・売上区分別では、システム導入及び改編時の初期費用であるイニシャル売上（パッケージ売上及びシステムインテグレーション売上）が低い水準に留まっています。当社が最大の売上高を記録した平成21年9月期においては年間2,757百万円のイニシャル売上がありましたが、以降、ASP化の進展に伴うハードウェア売上の急激な減少、同業他社との価格競争によるパッケージ価格及び受託開発価格の下落が発生し、イニシャル売上をあげるのが難しい事業環境となりました。
- ・導入したパッケージ製品に付随して毎月発生するランニング売上（ライセンスビジネス売上及びカスタマーサポート売上）は前年同期比88.6%と減少しています。前述した、証券ディーリングシステムにおける主要顧客の解約やASP化の進展が主な要因です。
- ・費用面においては、ASP化の進展に伴い、データセンター利用料やハードウェア保守料等の固定費を積極的に削減しました。また、業務効率化によりエンジニアの保守工数を削減し、外注費や労務費を削減しました。結果として、セグメントの費用は60百万円減少しました。

(ITソリューション事業)

ITソリューション事業の業績は、当社ITソリューション事業本部と連結子会社である株式会社ビーエス・ジェイ（以下「BSJ」）の業績であり、グループ経営管理ソリューションシステムの開発及び保守を中心に、エンジニア派遣等も行っています。

当第1四半期の経営成績は以下のとおりです。

売上高	46百万円（前年同期比45.5%）
セグメント損失	28百万円（前年同期は20百万円のセグメント利益）

前年同期はBSJにおいて大型プロジェクトの検収が集中した反動で、当第1四半期は前年同期比45.5%の売上高となりました。前期に開発したグループ経営管理ソリューション『GroupMAN@IT』やIT運用管理サービス『GadicsMAN@IT』の販売が当第1四半期においては進捗しておらず、売上高は46百万円にとどまりました。

一方、BSJを中心に業務フローと受注契約の見直しによる経営のスリム化を進め、結果としてセグメントの費用は前年同期を6百万円下回りました。

以上の要因から、当第1四半期のセグメント損失は28百万円となりました。

(ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業は当社ヘルスケア事業本部と連結子会社である株式会社らぼおぐ（以下「LBG」）、株式会社健康プラザパル（以下「パル」）、株式会社ジーコレクションの業績であり、健康関連商品及び製品の生産・販売を行っています。

当第1四半期の経営成績は以下のとおりです。

売上高	52百万円（前年同期比757.3%）
セグメント損失	51百万円（前年同期は30百万円のセグメント損失）

平成25年2月にパルを子会社化した効果で、売上高が前年同期の7.6倍に増加しました。

費用面においては、他セグメントからの人員異動に伴い人件費が増加したほか、先行投資に近い性質を持つ広告宣伝費と研究開発費も増加しました。LBGにおいては製品ラインナップの拡充に向けた研究開発を、パルにおいてはカタログの増刷等の広告宣伝を積極的に行いました。

以上の要因から、51百万円のセグメント損失となりました。

(自己資金運用事業)

自己資金運用事業の業績は、連結子会社である株式会社トレーデックスの業績です。

当第1四半期の経営成績は以下のとおりです。

売上高	—
セグメント損失	0百万円（前年同期は6百万円のセグメント損失）

当第1四半期においては、金融ソリューション事業との相乗効果を狙った運用手法と運用結果の相関の解析に重点を置いた結果、上記の業績となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期末の総資産額（負債及び純資産の合計額）は、前連結会計年度末に比べ66百万円減少し、3,064百万円となりました。

自己資本比率は73.3%、当座比率（当座資産÷流動負債、短期的安全性の指標）は449.9%であり、安定性の高い財務体質となっています。

（資産）

総資産合計3,064百万円のうち、現金及び預金と有価証券（MMF）の合計1,896百万円が61.9%を占め、高い手元資金比率を維持しています。その他は受取手形及び売掛金220百万円（構成比7.2%）、投資有価証券219百万円（構成比7.1%）、棚卸資産（商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品）125百万円（構成比4.1%）等です。

（負債）

負債合計817百万円のうち、借入金（短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、長期借入金の合計）が540百万円を占めています。その他は買掛金90百万円等です。

（純資産）

純資産合計2,246百万円の内訳は、資本金1,478百万円、資本剰余金794百万円、利益剰余金△6百万円、自己株式△95百万円等となっています。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは金融市場の動向の影響を受ける事業環境にありますが、現時点では平成25年9月期決算短信記載の連結業績予想で想定したとおりの進捗をしており、連結業績予想の変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,363,702	1,245,413
受取手形及び売掛金	225,574	220,915
有価証券	651,387	651,465
商品及び製品	24,062	48,019
仕掛品	46,509	69,115
原材料及び貯蔵品	7,543	8,649
繰延税金資産	45,800	45,800
その他	115,919	122,184
流動資産合計	2,480,499	2,411,562
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	180,533	180,533
減価償却累計額	△40,664	△46,116
建物及び構築物(純額)	139,869	134,416
機械装置及び運搬具	17,420	17,420
減価償却累計額	△2,571	△3,572
機械装置及び運搬具(純額)	14,849	13,848
工具、器具及び備品	386,206	386,206
減価償却累計額	△355,961	△359,884
工具、器具及び備品(純額)	30,244	26,322
リース資産	29,779	29,779
減価償却累計額	△12,956	△14,487
リース資産(純額)	16,823	15,291
有形固定資産合計	201,786	189,879
無形固定資産		
ソフトウェア	40,165	44,835
のれん	62,448	54,444
その他	1,247	1,247
無形固定資産合計	103,860	100,527
投資その他の資産		
投資有価証券	196,046	219,046
繰延税金資産	800	—
その他	163,759	159,311
貸倒引当金	△15,742	△15,742
投資その他の資産合計	344,863	362,615
固定資産合計	650,510	653,021
資産合計	3,131,010	3,064,584

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	107,811	90,180
短期借入金	105,000	105,000
1年内返済予定の長期借入金	153,936	153,936
未払法人税等	17,453	7,096
リース債務	6,522	6,588
その他	102,734	107,909
流動負債合計	493,457	470,710
固定負債		
長期借入金	309,431	281,667
リース債務	11,857	10,186
繰延税金負債	—	185
長期割賦未払金	60,604	53,822
退職給付引当金	1,767	1,264
固定負債合計	383,661	347,124
負債合計	877,118	817,834
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,478,433	1,478,433
資本剰余金	794,264	794,264
利益剰余金	23,025	△6,132
自己株式	△95,031	△95,031
株主資本合計	2,200,691	2,171,534
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	53,200	75,214
その他の包括利益累計額合計	53,200	75,214
純資産合計	2,253,891	2,246,749
負債純資産合計	3,131,010	3,064,584

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
売上高	670,012	614,467
売上原価	434,615	412,052
売上総利益	235,396	202,414
販売費及び一般管理費合計	219,280	229,804
営業利益又は営業損失(△)	16,115	△27,389
営業外収益		
受取利息	517	143
受取配当金	200	2,000
受取手数料	3,979	207
その他	518	920
営業外収益合計	5,214	3,272
営業外費用		
支払利息	2,272	2,937
その他	0	186
営業外費用合計	2,272	3,124
経常利益又は経常損失(△)	19,058	△27,242
特別損失		
固定資産除売却損	832	—
特別損失合計	832	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	18,226	△27,242
法人税、住民税及び事業税	2,632	1,914
法人税等合計	2,632	1,914
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	15,593	△29,157
少数株主利益	3,004	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	12,588	△29,157

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	15,593	△29,157
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7,100	22,014
その他の包括利益合計	7,100	22,014
四半期包括利益	22,693	△7,142
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	19,688	△7,142
少数株主に係る四半期包括利益	3,004	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年10月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)3	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)4
	証券ソリューション事業	ITソリューション事業 (注)1	フードサービス事業 (注)2	自己資金運用事業			
売上高							
外部顧客への売上高	572,360	90,788	6,863	—	670,012	—	670,012
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	11,750	45	—	11,795	△11,795	—
計	572,360	102,538	6,908	—	681,807	△11,795	670,012
セグメント利益又は損失 (△)	124,145	20,695	△30,207	△6,598	108,034	△91,918	16,115

- (注) 1. 「ITソリューション事業」の区分は、当社ITソリューション事業本部及び第1四半期連結会計期間より連結子会社となった株式会社ビーエス・ジェイにおいて行っている事業です。
2. 「フードサービス事業」の区分は、連結子会社である株式会社らぼおぐにおいて行っている事業です。
3. セグメント利益又は損失(△)の調整額△91,918千円は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に当社の管理部門に係る費用であります。
4. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 3	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 4
	金融ソリューション事業 (注) 1	ITソリューション事業	ヘルスケア 事業 (注) 2	自己資金運 用事業			
売上高							
外部顧客への売上高	516,402	45,777	52,286	—	614,467	—	614,467
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	875	32	—	907	△907	—
計	516,402	46,652	52,319	—	615,374	△907	614,467
セグメント利益又は損失 (△)	128,438	△28,655	△51,385	△296	48,101	△75,490	△27,389

- (注) 1. 当第1四半期連結会計期間より、従来「証券ソリューション事業」としていた報告セグメントから、「金融ソリューション事業」に名称を変更しております。なお、当該セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。
2. 前第3四半期連結会計期間より、従来「フードサービス事業」としていた報告セグメントから、「ヘルスケア事業」に名称を変更しております。なお、当該セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。
3. セグメント利益又は損失(△)の調整額△75,490千円は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に当社の管理部門に係る費用であります。
4. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。